



2026 年 5 月 29 日

各位



「池田泉州サステナブル定期預金」の充当状況の開示について

株式会社池田泉州銀行（頭取 CEO 阪口 広一）は、2025 年 7 月 1 日～2026 年 3 月 31 日の期間に募集した「池田泉州サステナブル定期預金」につきまして、適格サステナブルファイナンスへの充当状況や環境改善効果等について開示いたします。

当行は、今後も多様化するお客さまのニーズに的確にお応えし、地元金融機関としての役割を果たしながら、金融サービスを通じて地域経済の発展に貢献してまいります。

【商品概要】※2026 年 3 月 31 日をもって本商品の取扱いは終了いたしました。

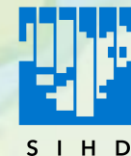
名称	池田泉州サステナブル定期預金
対象のお客さま	法人・個人（新たに定期預金としてお預け入れいただく資金を対象とします）
募集金額	100 億円（募集金額に達した場合、受付を終了いたします）
募集期間	2025 年 7 月 1 日（火）～2026 年 3 月 31 日（火）
お預入期間	1 年
お預入金額	1,000 万円以上 10 億円以内
適用利率	大口定期預金の店頭表示金利
特典	同意いただいたお客さまは当行ホームページ等へ氏名（企業名）等を掲載いたします。
預金の充当対象	外部機関から国際原則等に関する評価や第三者意見を取得しているグリーンローン、ソーシャルローン、サステナビリティローン、サステナビリティ・リンク・ローン、トランジションローン、ポジティブ・インパクト・ファイナンス及びこれらの債券
第三者評価機関	株式会社日本格付研究所

※当行は、本商品の導入にあたり「池田泉州銀行サステナブル預金フレームワーク」を策定のうえ日本格付研究所（JCR）からセカンド・オピニオンを取得しております。

池田泉州サステナブル定期預金 年次レポート

2026年5月

あしたに、わくわくを。



池田泉州銀行



池田泉州サステナブル定期預金 充当状況



2025年7月1日～2026年3月31日の期間に募集した「池田泉州サステナブル定期預金」につきまして、2026年3月末日における資金充当状況およびインパクトレポートについてお知らせします。お預入れいただいた預金は、全額を適格サステナブルファイナンスに充当しております。

◆充当状況

預金残高	サステナブルファイナンス残高
2,455百万円	42,355百万円

◆サステナブルファイナンス残高一覧

サステナブルファイナンス	残高
グリーンローン	5,454百万円
サステナブルローン	720百万円
サステナブル・リンク・ローン	8,609百万円
トランジションファイナンス	2,900百万円
ポジティブ・インパクト・ファイナンス	7,086百万円

サステナブルファイナンス	残高
グリーンボンド	1,637百万円
ソーシャルボンド	9,200百万円
サステナブルボンド	6,634百万円
サステナビリティ・リンク・ボンド	115百万円



サステナブルファイナンスがもたらした環境と社会へのインパクト



環境改善効果や社会へのインパクトについて、適格サステナブルファイナンス別に一例をあげております。各サステナブルファイナンスについては、ご利用のお客様の一部の活動に貢献しております。

カテゴリー	内容
グリーンローン	グリーンビルディング
サステナブルローン	グリーンビルディング、地域社会の持続的な成長への貢献に資するプロジェクト
サステナブル・リンク・ローン	省エネ合理化、エネルギー転換、技術革新 再生可能エネルギーや脱炭素電源 電力ネットワークの強化・高度化等のカーボンニュートラルに向けた施策への活用
グリーンボンド	クリーンな輸送に向けた電気自動車・ハイブリッド自動車等の購入 LED を使用した信号機等の新設・改良 水害対策（治水ダムの新設、河川の改修及び堆積土砂撤去） 気候変動への適応
サステナブルボンド	温室効果ガスの排出削減、エネルギーの利用削減、水災害など発生時の浸水被害・土砂災害の緩和、 汚染物質の排出削減、多種多様な希少生物の生息地の保全、子育て環境の提供、包括的・効果的な 学習環境の提供、基本的インフラの提供

ポジティブ・インパクト・ファイナンス(P I F)

PIFをご利用されたお客さまが設定している目標（KPI）について、関連するSDGs目標毎に設定した目標の一例を紹介しております。

 1 貧困をなくそう	貧困の減少	 5 ジェンダー平等を 実現しよう	女性活躍の推進 労働環境の改善	 9 産業と技術革新の 基盤をつくろう	再生エネルギーの拡大 資源利用効率の向上
 2 飢餓を ゼロに	フードロスの削減	 6 安全な水とトイレ を世界中に	水利用の効率化	 11 住み続けられる まちづくりを	輸送システムのアクセス向上 水関連災害の削減 環境負荷の低減
 3 すべての人に 健康と福祉を	安全な職場環境の維持 保険サービスの拡大	 7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに	再生エネルギーの拡大	 12 つくる責任 つかう責任	水利用の効率化 フードロスの削減
 4 質の高い教育を みんなに	社員教育の強化	 8 働きがいも 経済成長も	労働環境の改善 労働環境の向上 技術力の向上 金融サービスの拡大 女性活躍の推進 安全な職場環境の維持	 13 気候変動に 具体的な対策を	省電力化の推進 再生エネルギーの拡大 環境負荷の低減